

平成26年度「新入生の生活に関する調査」

学生・キャリア支援センターでは、平成26年度新入生（学部）とその保護者を対象に「新入生の生活に関する調査」を実施しました。

調査内容は、大学入学までの進路選択・決定、卒業後の進路志望、学生生活の経済的基礎、学生支援活動への期待（以上は新入生自身への調査）、家計支持者の職業、世帯年収、学歴、学生支援活動への期待（以上は新入生の保護者への調査）など多岐にわたるもので、いずれも、大学生活の基盤や大学へのニーズを明らかにすることによって、本学の学生・キャリア支援活動をより効果的に実行するための基礎資料として活用することを目的としています。

平成26年度入学者のうち、新入生自身への調査、新入生の保護者への調査ともに90.7%の方から、調査の返送および分析許可を得ることができました。

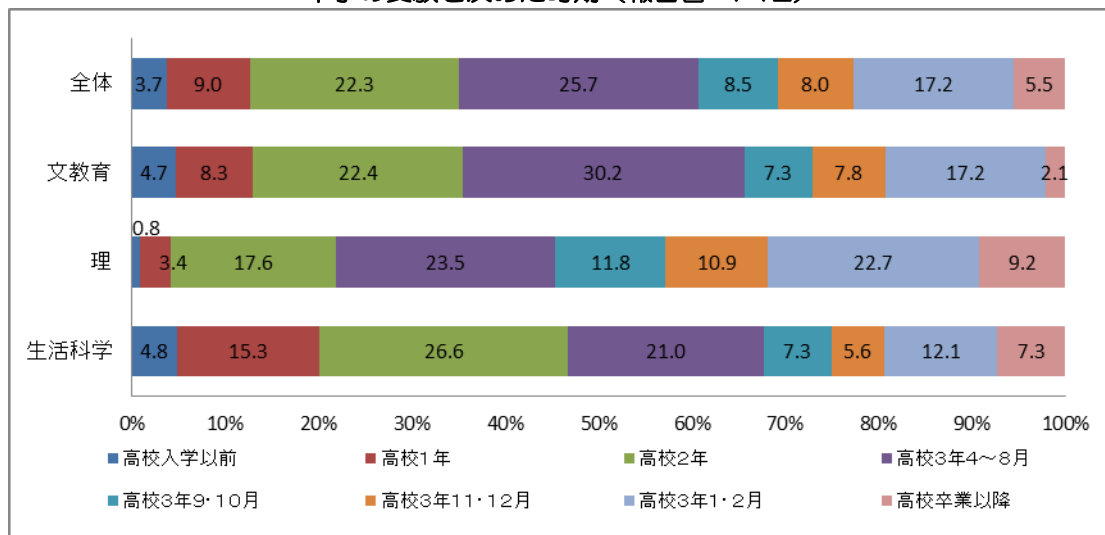
今回から5回にわたり、「学生・キャリア支援センターResearch Report」として、報告書の内容の一部を紹介いたします（報告書はTeaPotからPDF形式でダウンロードできます。
<http://hdl.handle.net/10083/56686>）

第1回 「お茶の水女子大学を志望した時期や度合い」

1. 高校3年からの受験校決定

本学の新生は、いつ頃から、本学の受験を決めたのでしょうか。

本学の受験を決めた時期（報告書 P12）



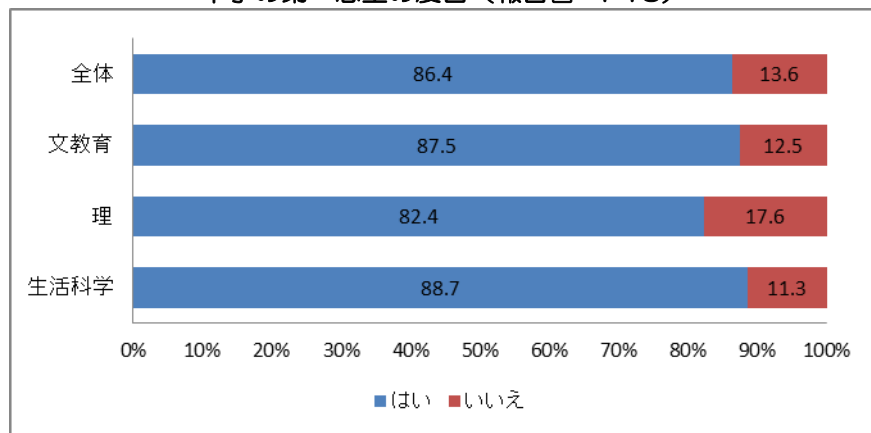
全体でみると、「高校3年4～8月」が25.7%で最も高く、「高校2年」「高校3年1・2月」がそれに続いています。昨年度は「高校2年」の割合が最も高く、「高校3年4～8月」がそれに続いていました。

理学部では「高校3年4～8月」について「高校3年1・2月」の割合が高く、センター試験後に本学の受験を決めた学生も少なからずみられます。その一方で、生活科学部では高校2年までに本学の受験を決めた学生が半数程度を占めています。これらの傾向は、昨年度も同様に示されています。

2. 全体のおよそ9割が本学第一志望

では受験時には、どの程度の新生が本学を第一志望としていたのでしょうか。

本学の第一志望の割合（報告書 P13）



受験時に本学が第一志望であったか否かについて尋ねたところ、全体でみると 86.4% が本学を第一志望としており、昨年度と大きな差はありませんでした。

理学部では第一志望の割合が他学部と比べると低いのですが、年々、その割合は高くなっており、他学部との差は小さくなっています。

3. 高校卒業後、すぐに本学へ入学

さいごに、本学の新生は、高校卒業後にどのような経験をして、本学に入学したのかについてみていきましょう。

高校卒業から現在までの間に経験したこと（複数回答可）（報告書 P13） (%)

	他の高等教育機関に入学した	フルタイムで働いた	浪人した	海外留学をした	この中にはない	無回答
全体	1.6	0.0	12.6	0.0	80.0	6.9
文教育	0.5	0.0	6.3	0.0	85.9	7.8
理	1.7	0.0	16.0	0.0	78.2	5.0
生活科学	3.2	0.0	19.4	0.0	72.6	7.3

高校卒業から調査時期（大学入学前年度の 3 月）までに経験したことについて尋ねたところ、昨年度同様、「浪人した」以外はいずれもごくわずかな経験率であり、学部別にみても大きな差はみられませんでした。

次回は、
「お茶の水女子大学に入学後の学生生活」
について、ご報告します。



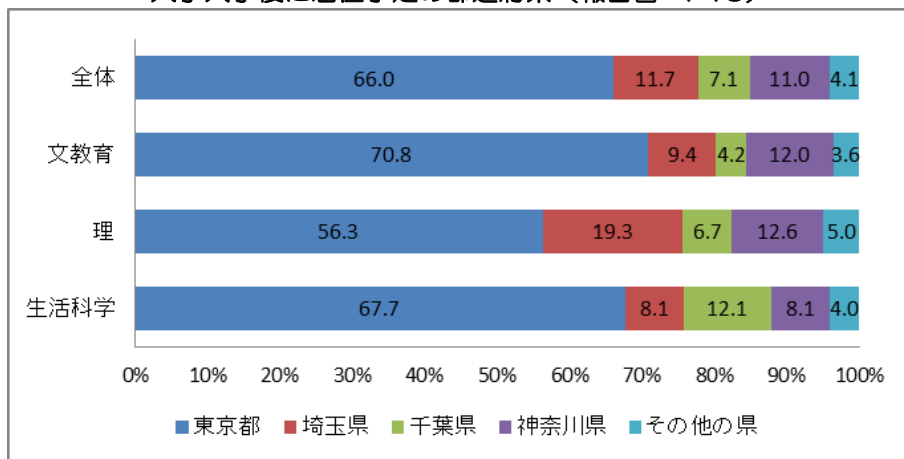
平成26年度「新入生の生活に関する調査」

第2回 「お茶の水女子大学に入学後の学生生活」

1. 都内を中心に、「実家」「アパート・マンション」「学生寮」から通学

本学の新入生は、どこから本学に通学する予定なのでしょう。

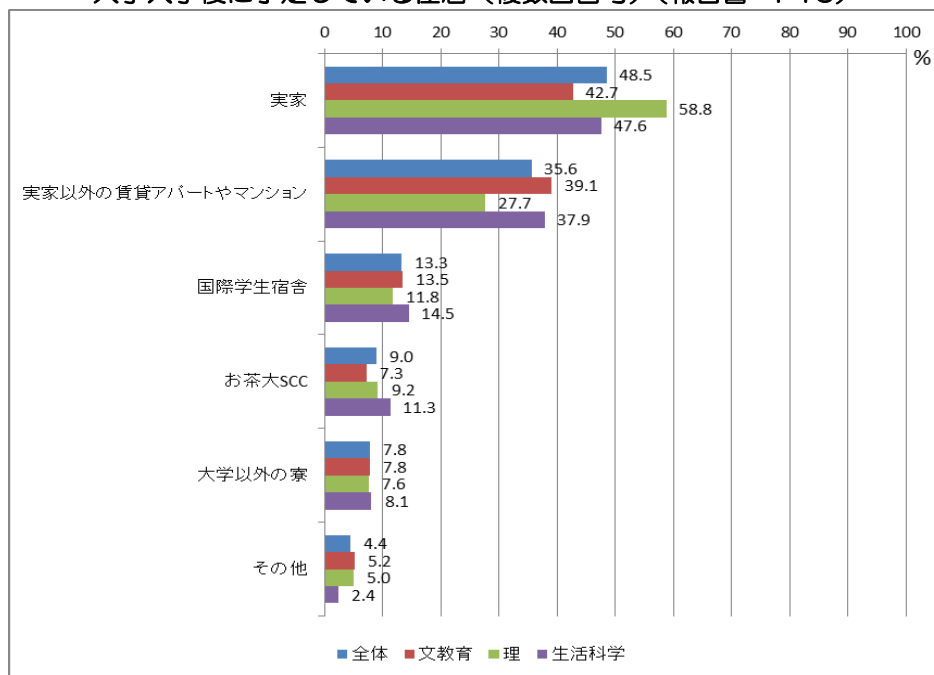
大学入学後に居住予定の都道府県（報告書 P15）



全体で見ると、昨年度同様、「東京都」が66.0%と最も高く、「埼玉県」「神奈川県」「千葉県」がそれに続いています。理学部では、他学部より「東京都」が10ポイント以上も低く、「埼玉県」が10ポイント程度高い結果も示されています。

では、大学入学後にはどのような住居を予定しているのでしょうか。

大学入学後に予定している住居（複数回答可）（報告書 P16）



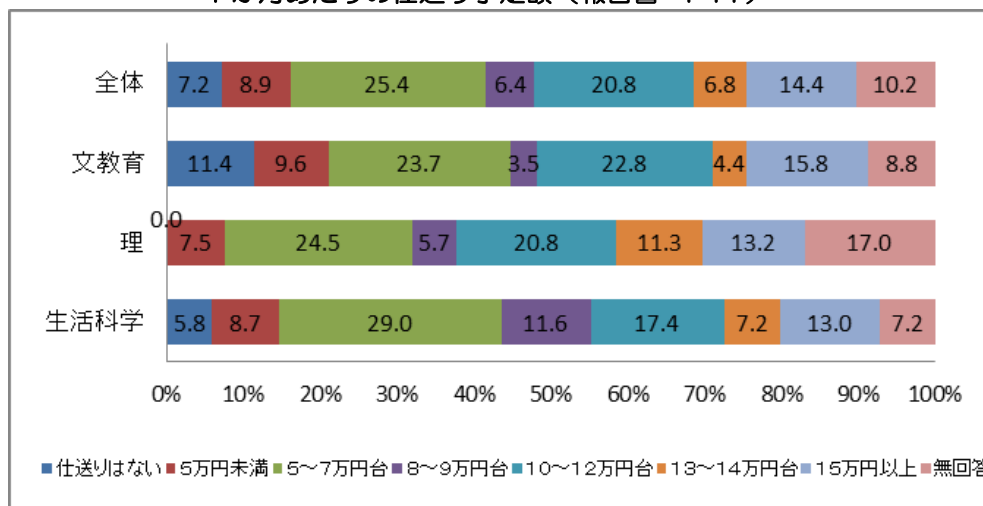
全体でみると、「実家」が48.5%と約半数を占めており、昨年度同様、「実家以外の賃貸アパートやマンション」、「国際学生宿舎」や「お茶大 SCC」といった本学の学生寮がそれに続いています。

理学部では、「実家」の割合が他学部より10ポイント以上高い結果も示されています。

2. アパートやマンションの家賃は「毎月5～9万円台」がおよそ85%

では、本学の新入生、特に「実家」以外からの通学を予定している人は、どの程度の金額の仕送りを受け、そのうちのどの程度の金額を家賃として予定しているのでしょうか。

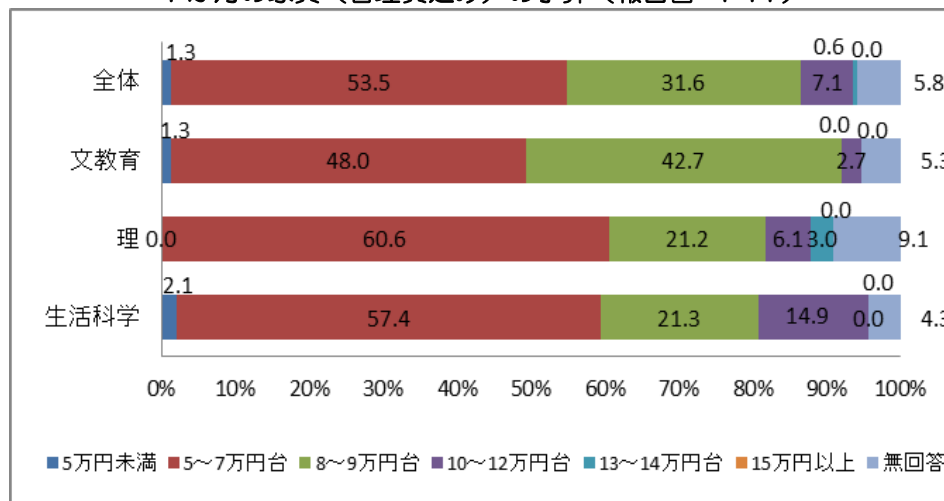
1 か月あたりの仕送り予定額（報告書 P17）



1 か月あたりの仕送り予定額（万円未満は四捨五入）について、「実家」以外に居住予定の人に尋ねたところ、全体でみると「5～7万円」が25.4%と最も高く、昨年度同様、「10～12万円」がそれに続いています。「5万円未満」も少なからずみられ、「仕送りはない」も全体の7.2%を占めています。

さらに、1 か月の家賃（管理費込み）の予算（千円未満は四捨五入）について、「賃貸アパートやマンション」に居住予定の者に尋ねたところ、昨年度同様、「5～7万円」の割合が最も高く、「8～9万円」がそれに続いており、両者を合わせるとおよそ85%の学生が1 か月の家賃として5～9万円を予定していることがわかります。

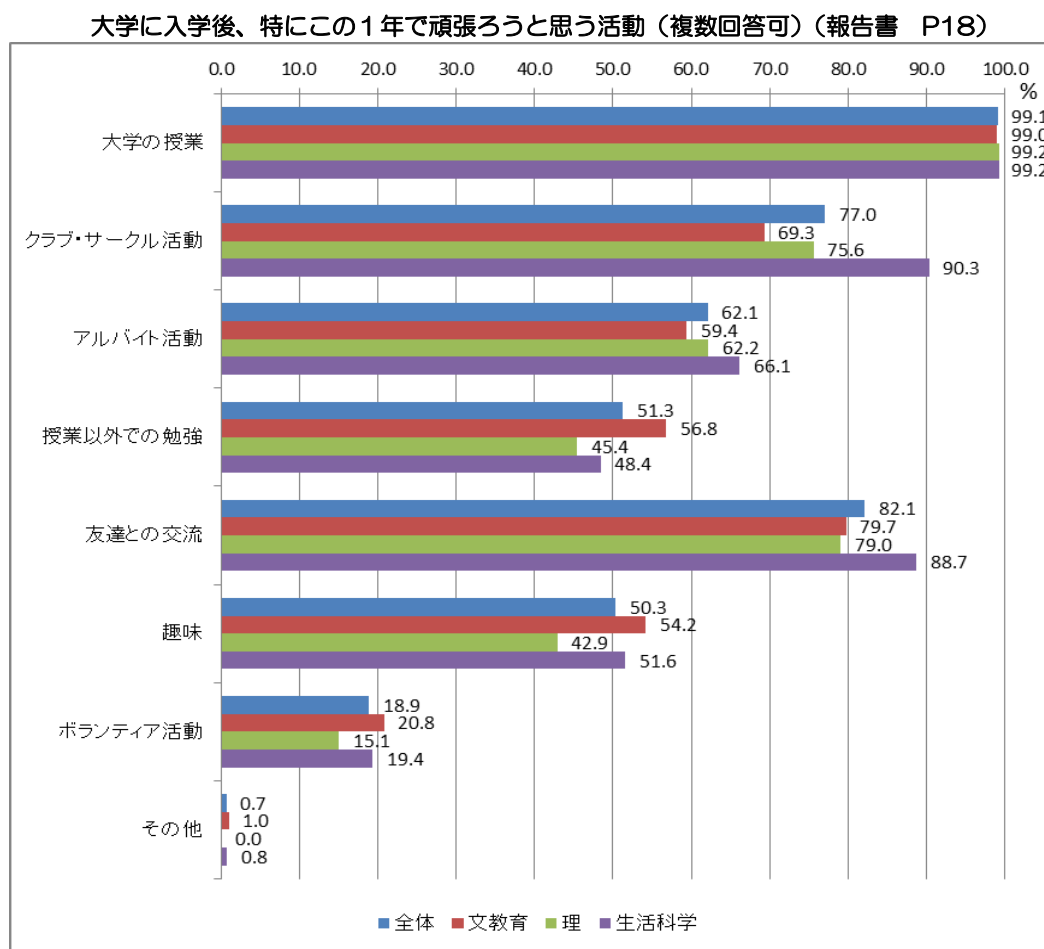
1 か月の家賃（管理費込み）の予算（報告書 P17）



3. この1年で頑張りたいのは、

「大学の授業」「友達との交流」「クラブ・サークル活動」

では、本学の新入生は、大学に入学後、特にこの1年でどのような活動を頑張ろうと思っているのでしょうか。



大学に入学後、特にこの1年で頑張ろうと思う活動について、複数回答可として尋ねたところ、「大学の授業」が全体の99.1%で最も高く、学部による差もみられませんでした。

それに続いて、「友達との交流」「クラブ・サークル活動」の割合が全体の7割を超えています。生活科学部ではそれぞれおよそ9割に及んでおり、他学部比べて明らかに高い結果を示しています。

4. 新入生は「授業や単位」「人間関係」「就職や将来」が、

保護者は「就職や将来」「健康面」「人間関係」が不安

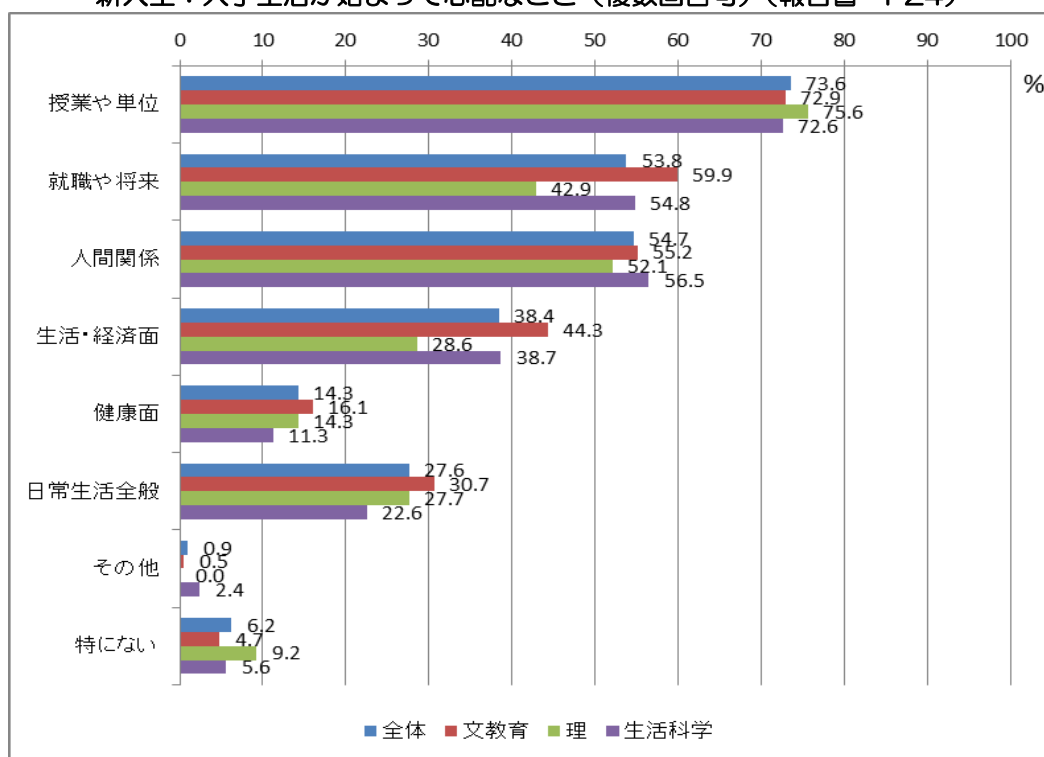
では、本学の新入生やその保護者は、大学入学後の学生生活に対してどのような不安を抱えているのでしょうか。

まずは、新入生自身の回答結果をみていきましょう。

「授業や単位」が全体の73.6%と最も高く、「人間関係」「就職や将来」がそれに続き5割を超えています。昨年度の「就職や将来」の割合は6割を超えており、「人間関係」がそれに続く結果でした。

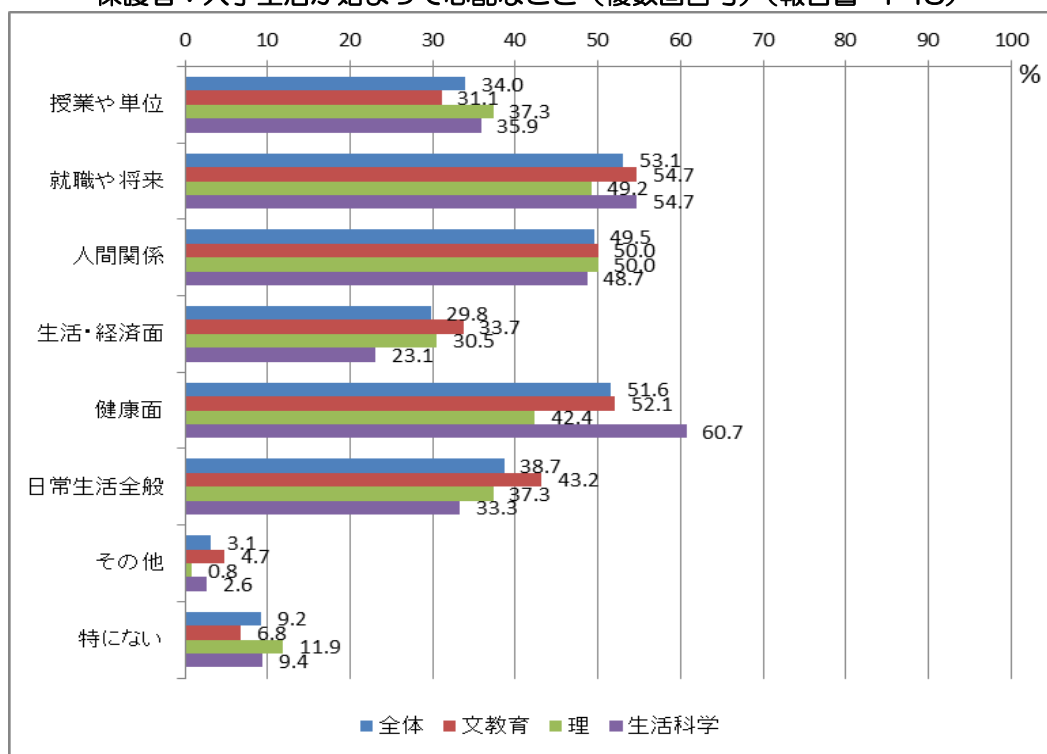
「授業や単位」「人間関係」では学部による大きな差はみられませんが、「就職や将来」に関しては、理学部が他学部よりも10ポイント以上低い結果となっています。

新入生：大学生活が始まって心配なこと（複数回答可）（報告書 P24）



同様に、新入生の保護者の回答結果をみていきましょう。

保護者：大学生活が始まって心配なこと（複数回答可）（報告書 P48）



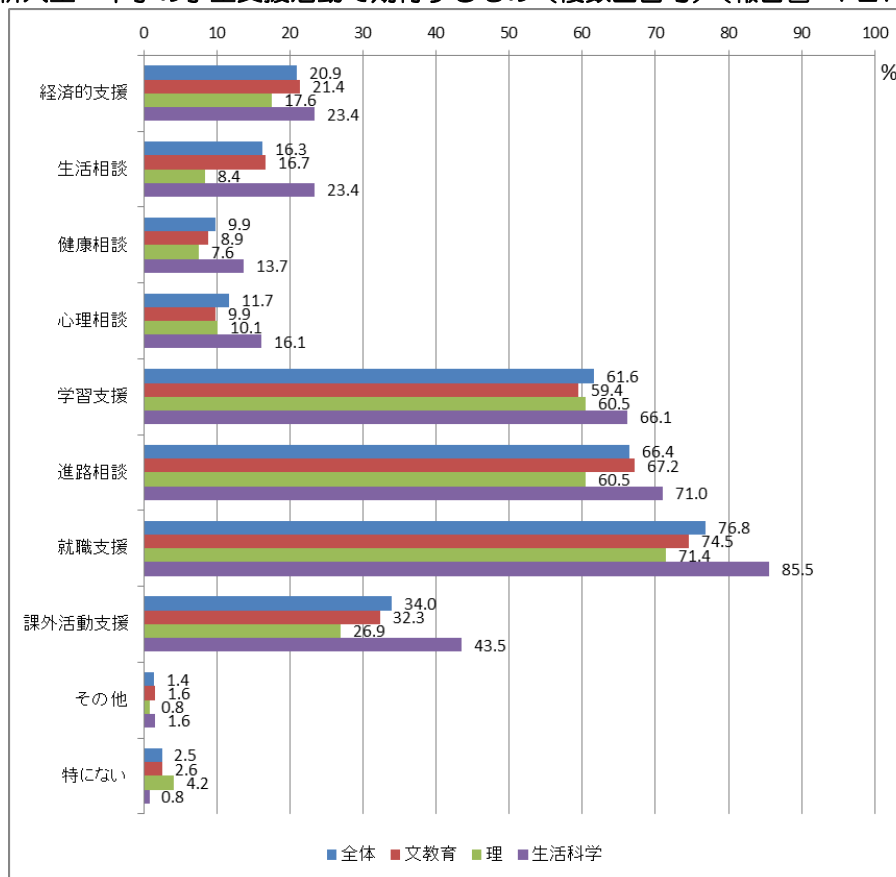
「就職や将来」が全体の53.1%と最も高く、昨年度同様、「健康面」「人間関係」がそれに続いています。「人間関係」では学部による差はみられませんが、「就職や将来」「健康面」に関しては、理学部の割合の低さが示されています。

5. 新入生・保護者ともに、就職支援に大きな期待

さいごに、本学の新入生や保護者が期待する学生支援活動についてみていきましょう。

まずは、新入生自身の回答結果をみていきましょう。

新入生：本学の学生支援活動で期待するもの（複数回答可）（報告書 P27）



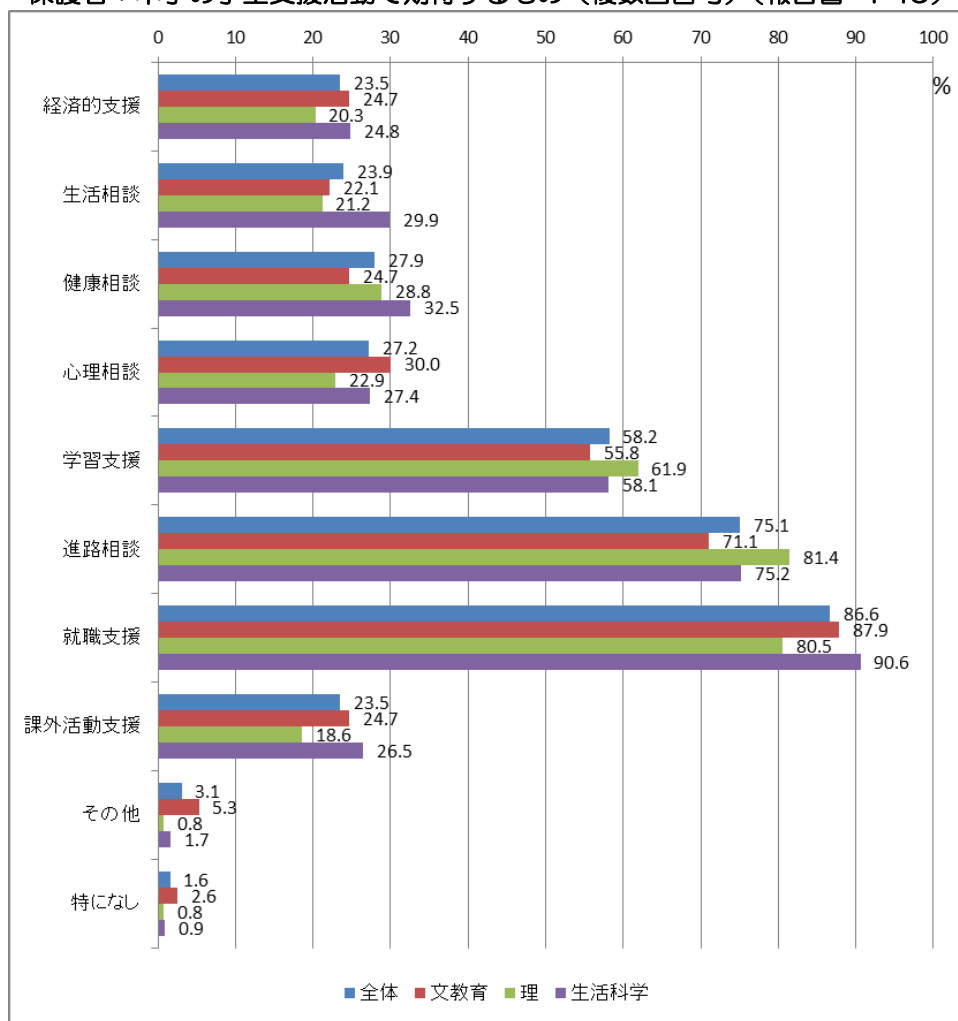
全体でみると、「就職支援」が全体の76.8%と最も高く、「進路相談」「学習支援」が6割を超えてそれに続いています。これらの支援への期待は、昨年度は文教育学部が目立っていましたが、今年度は生活科学部が目立つ結果となりました。

同様に、新入生の保護者の回答結果をみていきましょう。

「就職支援」が全体の86.6%で最も高く、中でも、文教育学部や生活科学部ではおよそ9割に達しています。「進路相談」「学習支援」の割合は6割を超え、それに続いています。昨年度も同様の傾向がみられました。

理学部では「就職支援」の割合は80.5%と他学部より低いのですが、その一方で「進路相談」の割合は81.4%と他学部より高く、また、「就職支援」の割合よりもわずかですが高い結果となっています。

保護者：本学の学生支援活動で期待するもの（複数回答可）（報告書 P49）



次回は、
「大学卒業後の進路展望
と保護者の関与」
について、ご報告します。



「学生・キャリア支援センター *Research Report*」としてその一部を紹介いたします報告書は、TeaPot からPDF形式でダウンロードできます。（<http://hdl.handle.net/10083/56686>）。

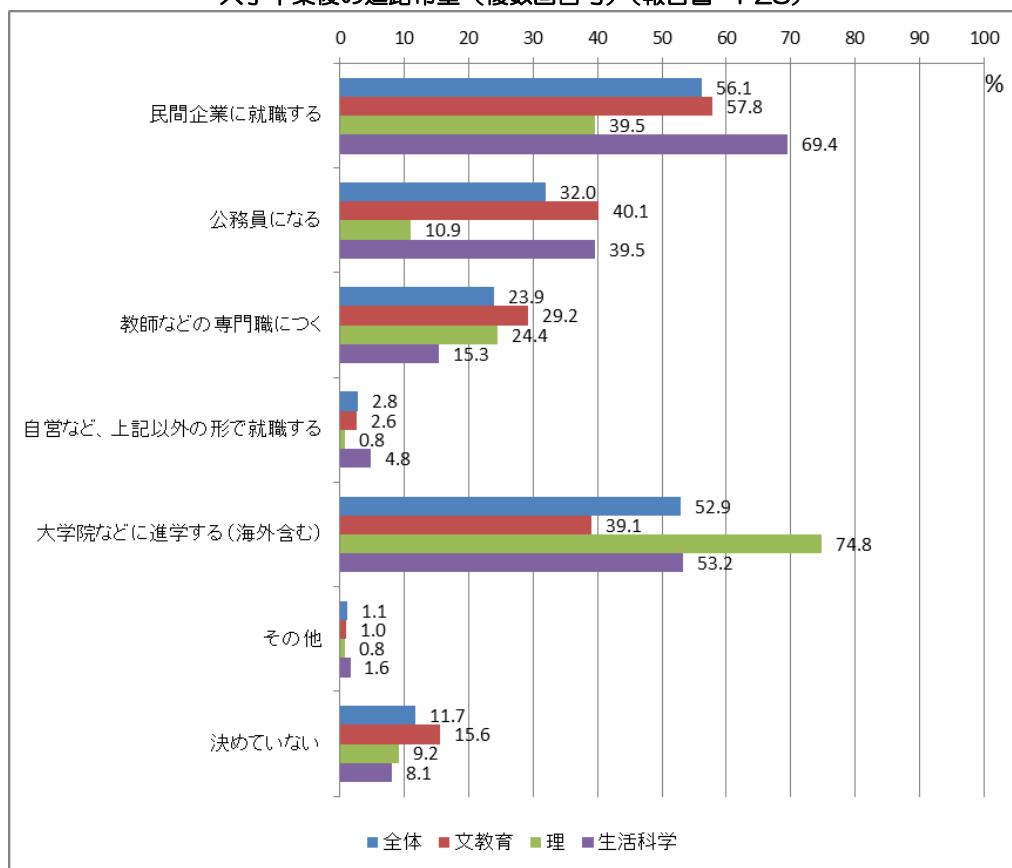
平成26年度「新入生の生活に関する調査」

第3回 「大学卒業後の進路展望と保護者の関与」

1. 「民間企業に就職」「大学院などへの進学」それぞれを半数以上が希望

本学の新入生は、大学卒業後の自身の進路について、どのような希望をもっているのでしょうか。

大学卒業後の進路希望（複数回答可）（報告書 P28）



全体でみると、「民間企業に就職する」の割合が56.1%と最も高いのですが、「大学院などに進学する（海外含む）」もそれに続いて52.9%を占めています。ただし「大学院などに進学する（海外含む）」は、理学部では7割を超えるのに対し、文教育学部では4割程度です。これらの傾向は、昨年度も同様に示されています。

これらの進路に「公務員になる」が全体の32.0%で続いています。文教育学部や生活科学部ではおよそ4割を占めるのに対し、理学部では1割程度にとどまっています。

2. 卒業後に正規で雇用され、その就職先に長く勤めたい

では、本学の新入生は、大学卒業後の就職について、どのような考えをもっているのでしょうか。「卒業後の就職」「就職後の勤務・退職」「卒業後・就職後の大学院進学」といった側面からみていきましょう※。

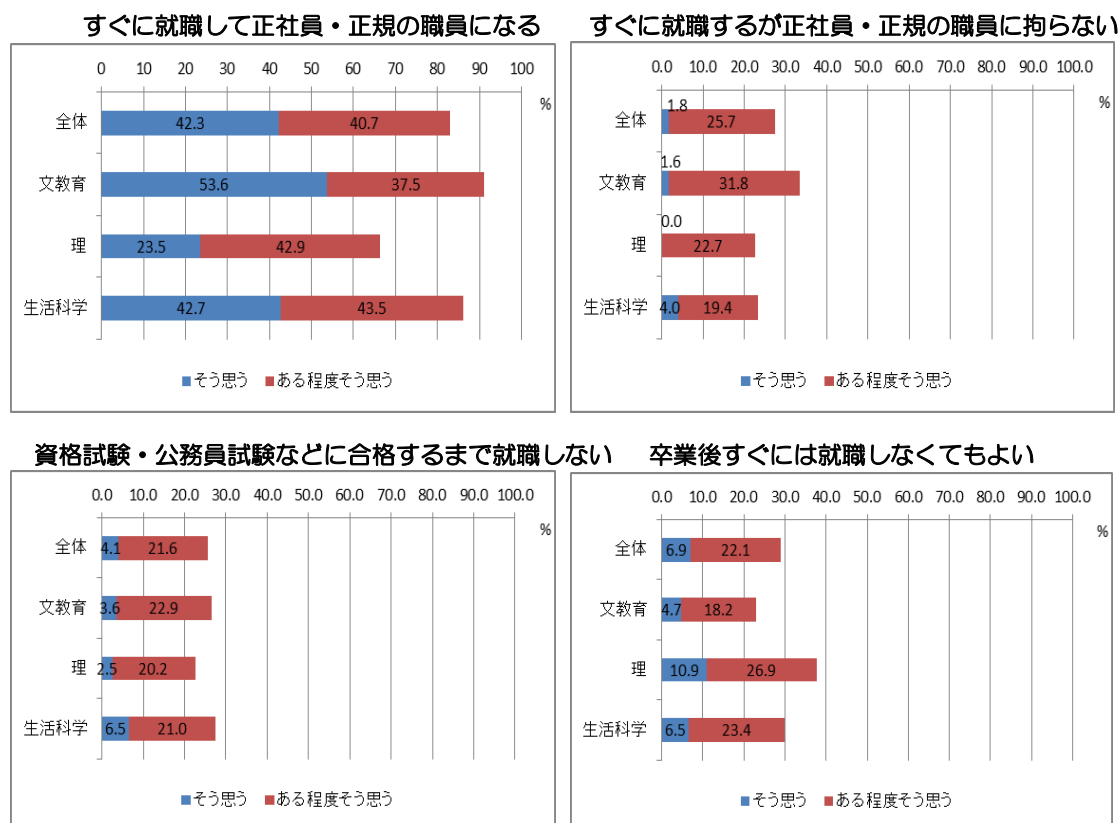
※「大学卒業後のキャリアについての考え」に関する9項目について3件法で尋ね、その該当率（「そう思う」＋「ある程度そう思う」）を示した結果を図示しています。

(1)「卒業後の就職」についての考え（報告書 P29-30）

「すぐに就職して正社員・正規の職員になる」の割合が全体の 8 割を超える一方で、「すぐに就職するが正社員・正規の職員に拘らない」「資格試験・公務員試験などに合格するまで就職しない」「卒業後すぐには就職しなくてもよい」は全体の 2～3 割にとどまっています。

ただし理学部では、「すぐに就職して正社員・正規の職員になる」の割合が他学部比べて低い結果も示されています。

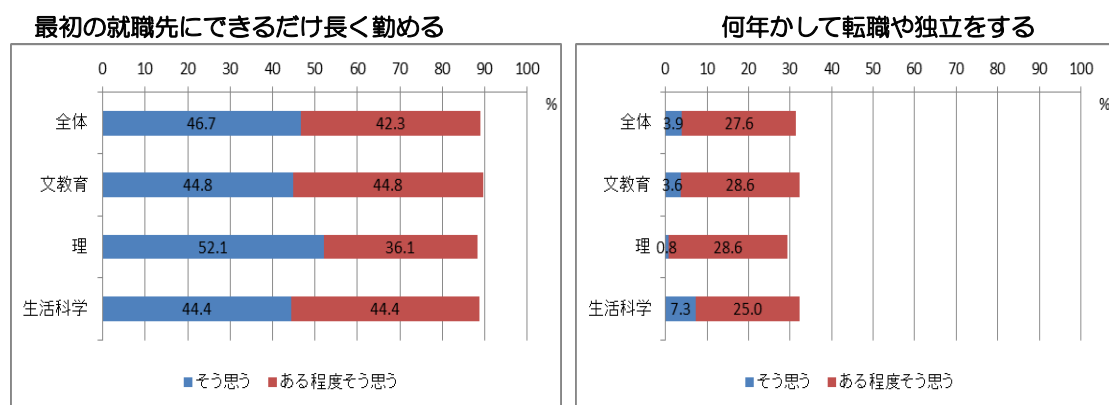
これらの傾向は、昨年度も同様に示されています。



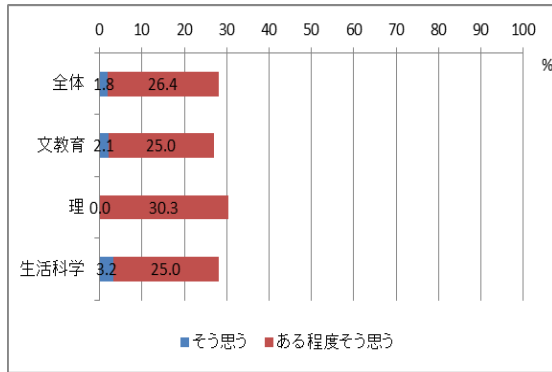
(2)「就職後の勤務・退職」についての考え（報告書 P31）

「最初の就職先にできるだけ長く勤める」の割合は、全体のおよそ 9 割に及んでいます。その一方で、「何年かして転職や独立をする」「結婚・出産したら仕事をやめる」は全体の 3 割程度にとどまっており、「そう思う」との回答はいずれも極めて少数であることも示されています。

これらの傾向は、昨年度も同様に示されています。



結婚・出産したら仕事をやめる

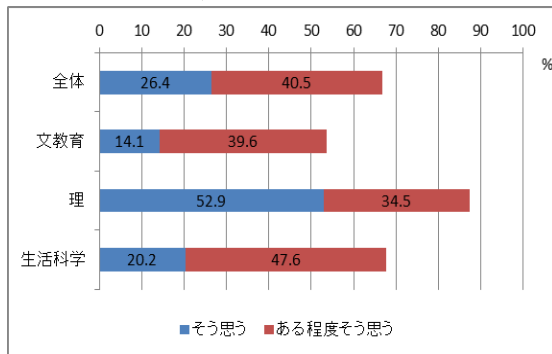


(3)「卒業後・就職後の大学院進学」についての考え (報告書 P32)

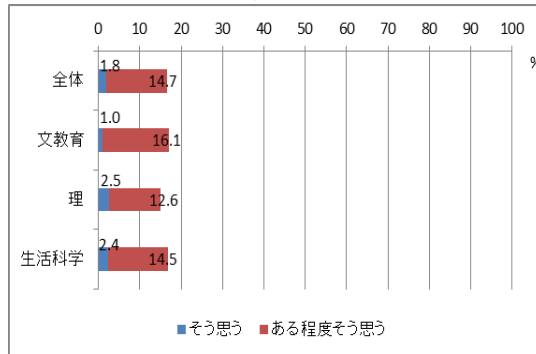
「すぐに大学院などに進学する」割合は全体のおよそ 7 割ですが、理学部では他学部比べて明らかに高い結果となりました。その一方で、「就職してから大学院への進学を考える」の割合には、学部による大きな差はみられません。

これらの傾向は、昨年度も同様に示されています。

すぐに大学院などに進学する



就職してから大学院への進学を考える

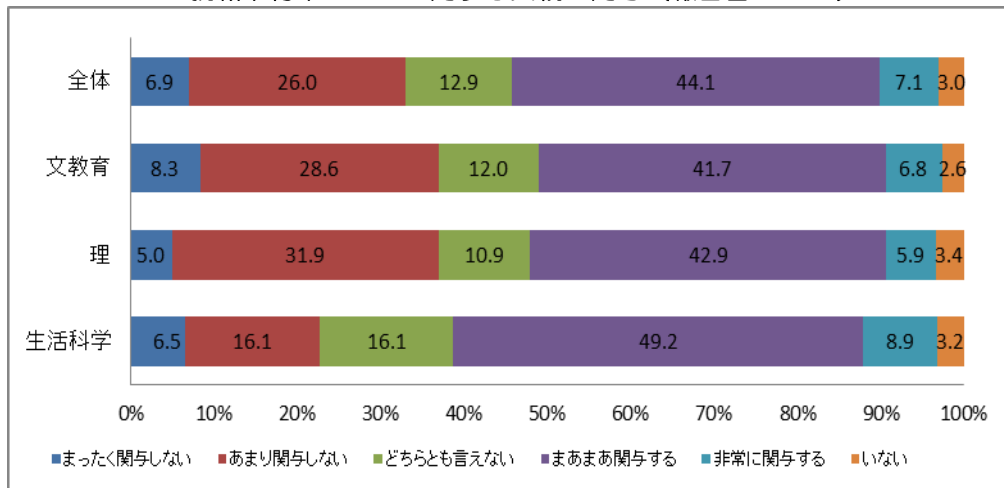


3. 半数の父親、2/3の母親が、子どもの就職や将来の進路に関与

さいごに、本学の新入生の就職や将来の進路について、両親がどの程度関与しているのかについてみていきましょう。

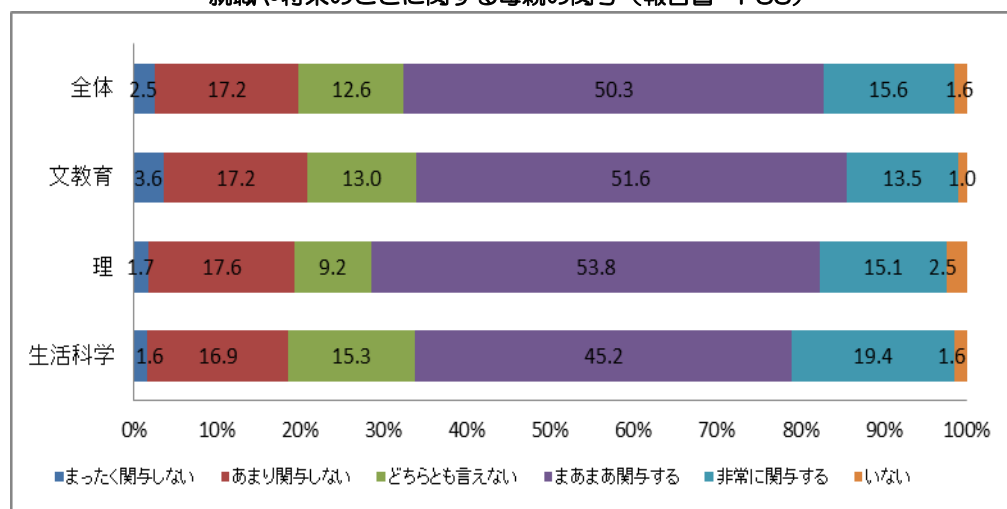
まず、父親の関与について尋ねたところ、51.2%が「非常に関与する」または「まあまあ関与する」と回答しています。昨年度と大きな違いはありませんが、昨年度は理学部での高さが目立っていたのに対し、今年度は生活科学部での高さが目立ちます。

就職や将来のことに関する父親の関与 (報告書 P33)



同様に母親の関与についても尋ねたところ、65.9%が「非常に関与する」または「まあまあ関与する」と回答しています。この結果は、昨年度と大きな違いはありません。

就職や将来のことに関する母親の関与（報告書 P33）



次回は、
「どのような新入生と保護者が
奨学金を認知・希望しているか」
について、ご報告します。



「学生・キャリア支援センター*Research Report*」としてその一部を紹介いたします報告書は、TeaPotからPDF形式でダウンロードできます。（<http://hdl.handle.net/10083/56686>）

平成26年度「新入生の生活に関する調査」

第4回 「どのような新入生と保護者が、奨学金を認知・希望しているか」

前回は「大学卒業後の進路展望と保護者の関与」についてご報告いたしました。その中で、子どもの就職や将来の進路に対する保護者の関与の高さが示され、新入生だけでなく保護者の存在も視野に入れた支援が必要なることが明らかとなりました。そこで、今回は新入生と保護者の奨学金の認知や希望についてご報告したいと思います。また、今年度で新入生の生活に関する調査は4年目を迎えます。奨学金の受給経験・認知・希望について、過去3年のデータとの比較を行いました。合わせてご覧ください。

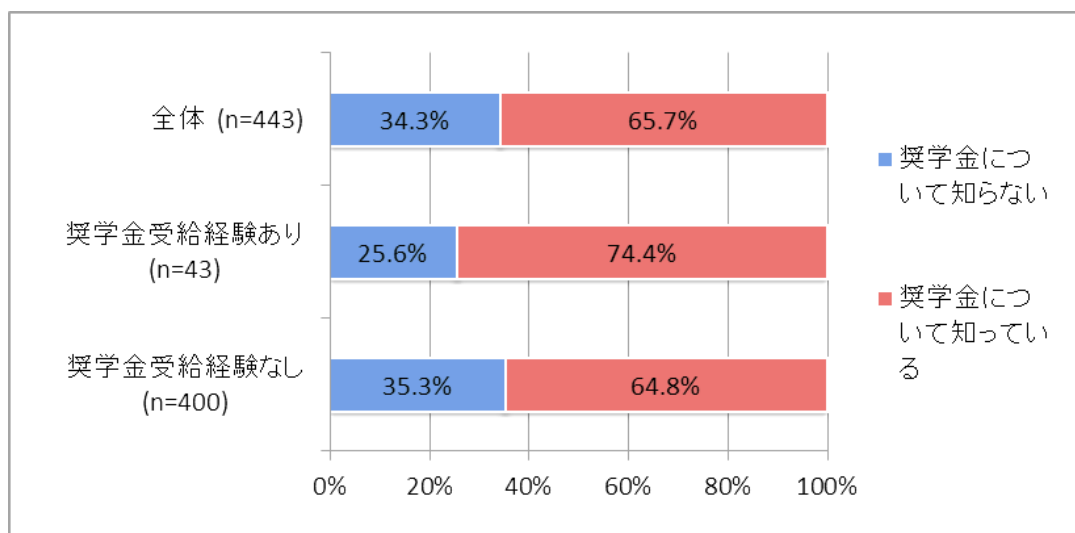
1. 新入生の結果

(1) 過去に奨学金の受給経験がある者ほど、奨学金の認知度が高い

まず新入生の奨学金の認知度を調べました。また、過去に奨学金を受給した経験がある者とならない者とで、奨学金の認知度が異なるかを調べました。

その結果、全体では65.7%の新入生が奨学金について認知していることがわかりました。また、これまでに奨学金を受給した経験がある場合は、奨学金の認知度が高く(74.4%)、これまでに奨学金を受給した経験のない場合は、奨学金の認知度が低い(64.8%)ことがわかりました。これは昨年度と同様の結果ではあります。

奨学金受給経験と奨学金の認知（報告書 p.50）



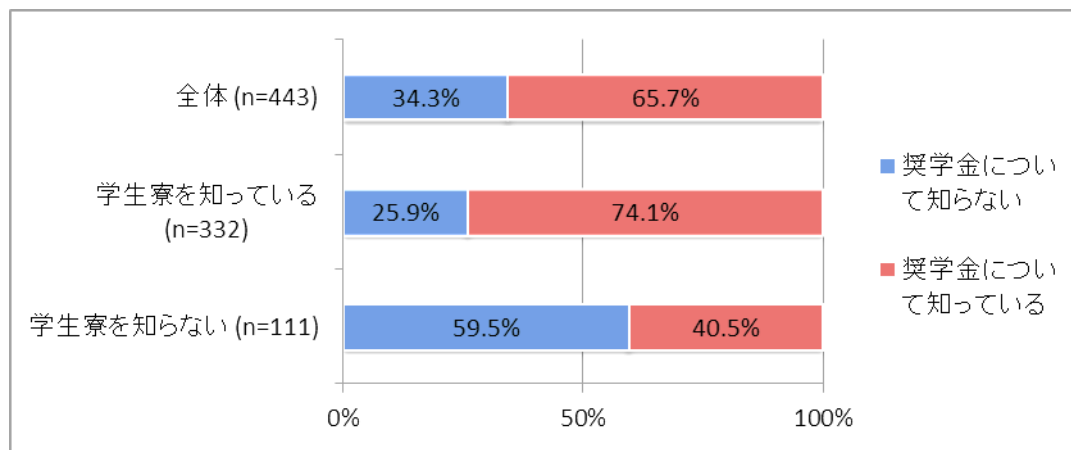
(2) 学生寮を知っている者ほど、奨学金の認知度が高い

次に、学生寮の認知と奨学金の認知に、関連があるかを調べました。

その結果、学生寮について認知している場合は、奨学金の認知度が高く(74.1%)、学生寮について認知していない場合は、奨学金の認知度が低い(40.5%)ことがわかりました。これは昨年度と同様の結果であり、学生寮という学生生活の支援に関心がある者は、奨学金の認知度も高いことが示されました。また昨年度と比べ、奨学金についてと学生寮について、ともに「知らない

い」と回答している者の割合が、昨年度が52.0%であったのに対し、今年度は59.5%と増加している。奨学金と学生寮について、必要としている者に、情報が届くようにしていくことが求めると考えられます。

学生寮の認知と奨学金の認知（報告書 p.52）



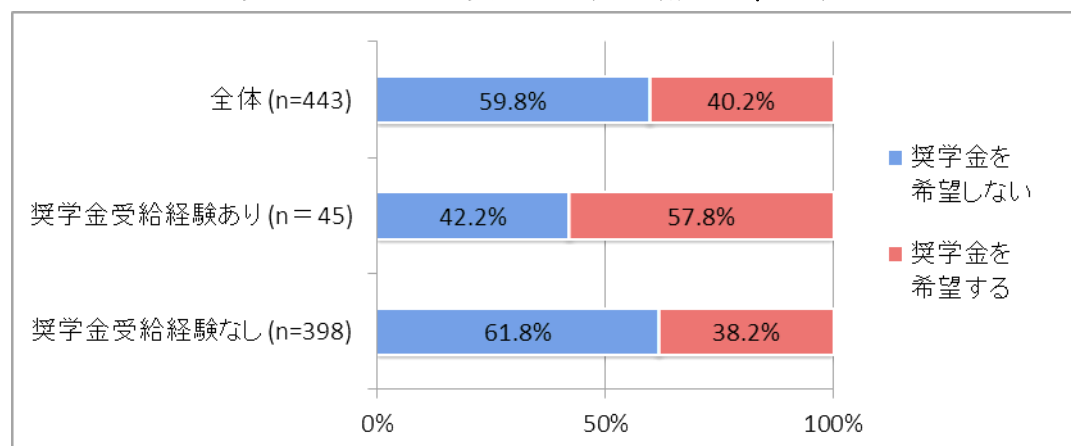
2. 保護者の結果

(1) 過去に奨学金受給経験がある者ほど、奨学金を希望する割合が高い

次に、保護者の奨学金の希望の有無を調べました。また、過去に奨学金を受給した経験がある者となない者として、奨学金の希望の有無に違いがあるかを調べました。

その結果、全体では、40.2%の保護者が奨学金を希望していることがわかりました。また、これまでに奨学金を受給した経験がある場合は、奨学金を希望する割合が高く、これまでに奨学金を受給した経験がない場合は、奨学金を希望する割合が低いことがわかりました。これは昨年度と同様の結果ではありますが、これまでに奨学金を受給した経験のある者で、奨学金を希望する者の割合は、昨年度が65.6%だったのに対して、今年度は57.8%と少なくなっています。これは一昨年（80.6%）と比べ、徐々に少なくなっていることがわかります。

奨学金受給経験と奨学金の希望（報告書 p.54）

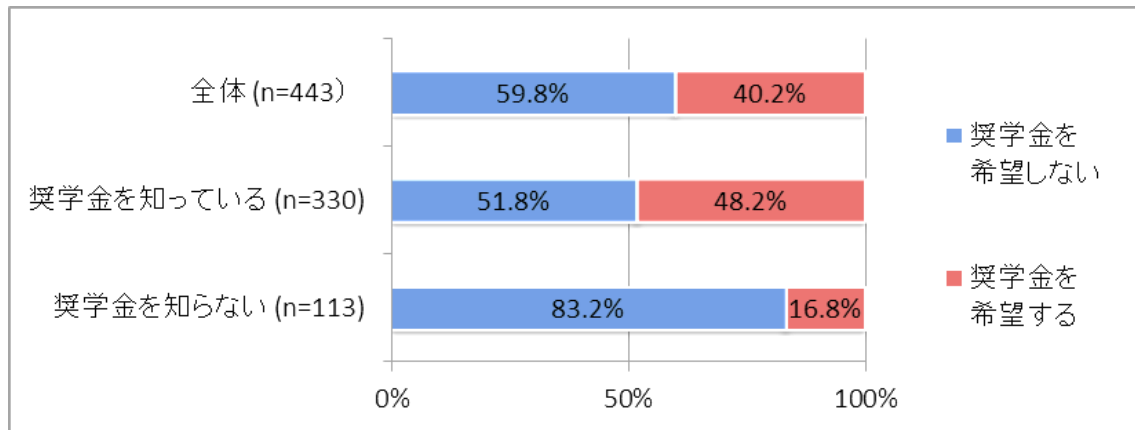


(2) 奨学金について認知している者ほど、奨学金を希望する割合が高い

奨学金の認知と奨学金の希望の有無に関連があるかを調べました。

その結果、奨学金について認知している場合は、奨学金を希望する割合が高く、奨学金について認知していない場合は、奨学金を希望する割合が低いことがわかりました。これは昨年度と同様の結果であります。

奨学金の認知と希望（報告書 p. 54）

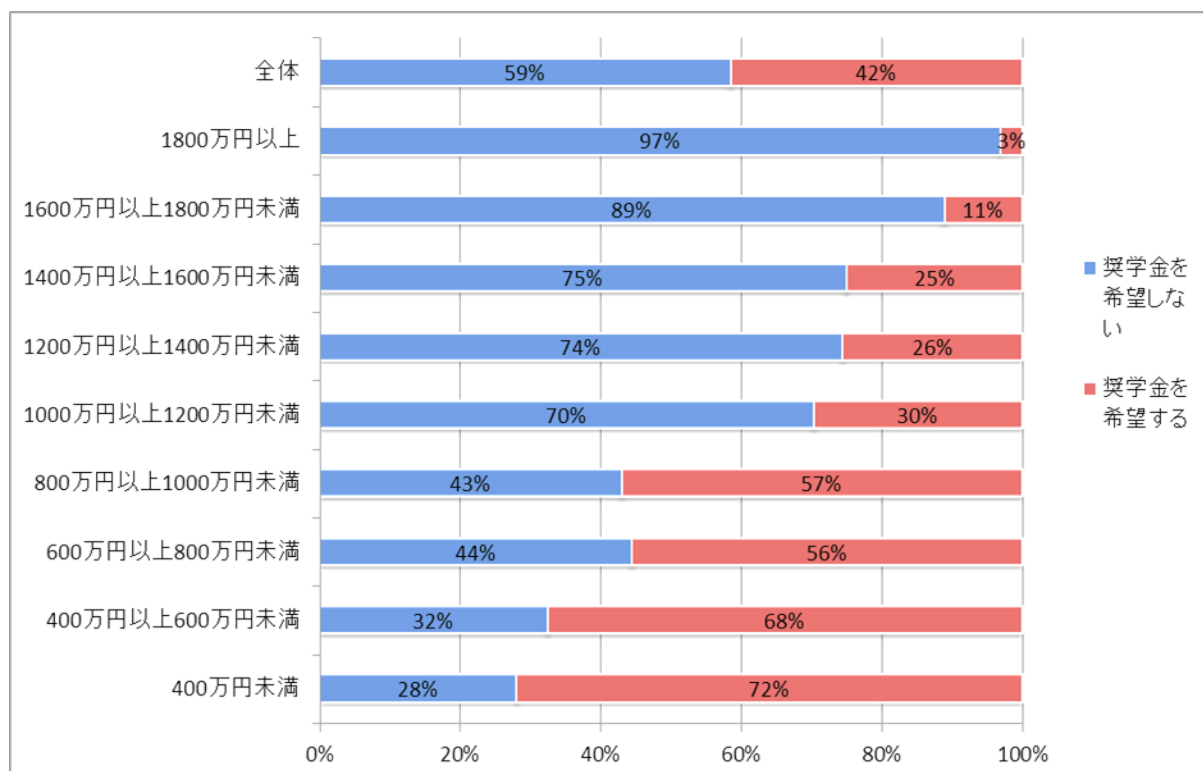


(3) 世帯年収が少ないほど、奨学金を希望する割合が高い

世帯年収と奨学金の希望の有無に関連があるかを調べました。

その結果、世帯年収が少ない場合は、奨学金を希望する割合が高く、世帯年収が多い場合は、奨学金を希望する割合が低いことがわかりました。これは昨年度と同様の結果でした。

世帯年収と奨学金の希望（報告書 p. 55）

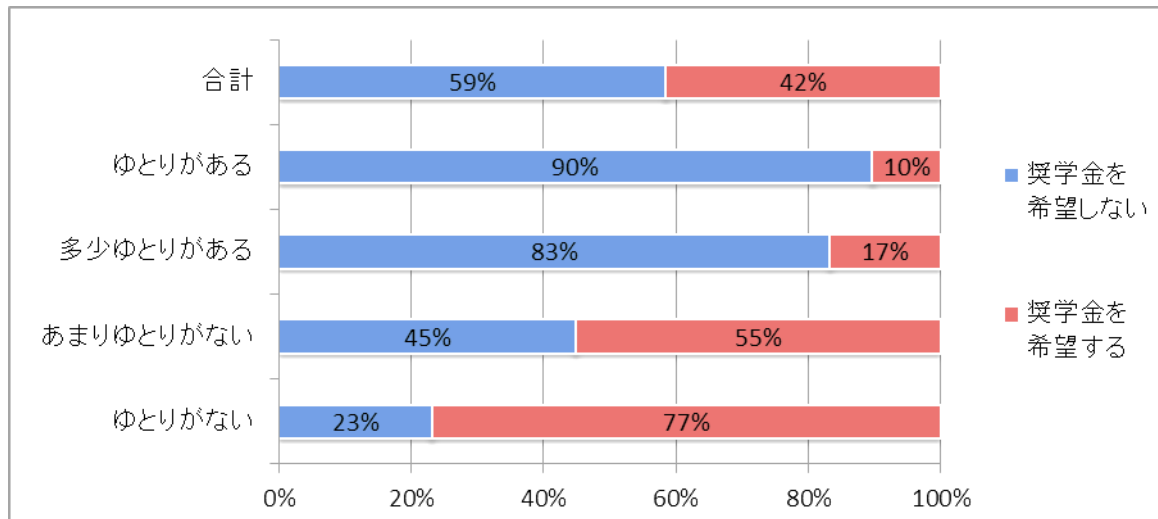


(4) 入学後の暮らし向きに余裕がないほど、奨学金を希望する割合が高い

入学後の暮らし向きと奨学金の希望の有無に関連があるかを調べました。

その結果、入学後の暮らし向きにゆとりがないと感じている場合は、奨学金を希望する割合が高く、ゆとりがあると感じている場合は、奨学金を希望する割合が低いことがわかりました。これは昨年度と同様の結果でした。

入学後の暮らし向きと奨学金の希望（報告書 p.57）

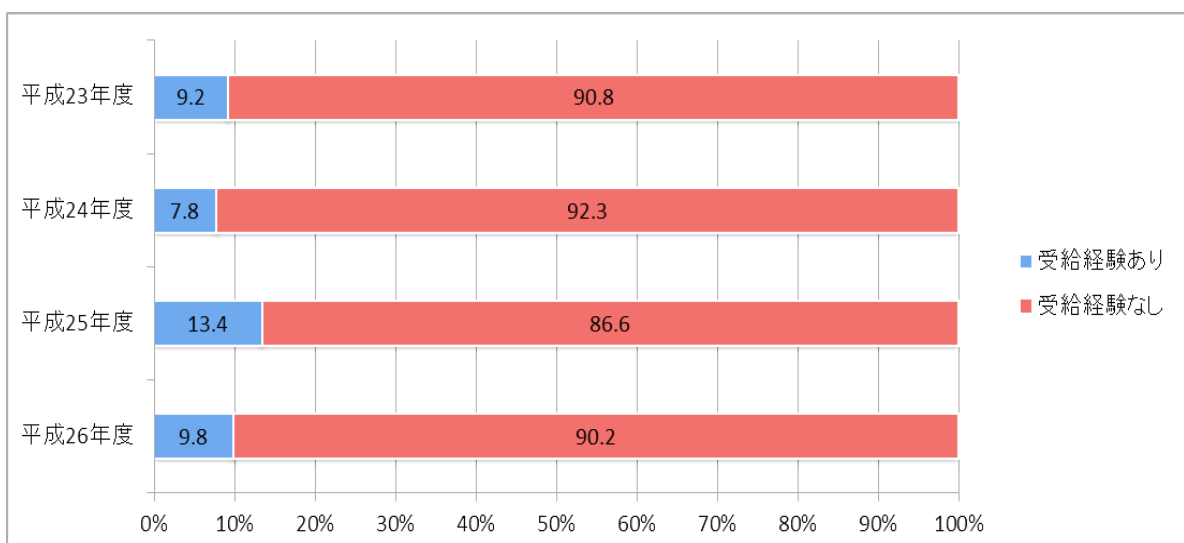


3. 奨学金の受給経験・認知・希望について、4年間の比較

(1) 新入生の奨学金受給経験について

新入生の「奨学金の受給経験」の割合は、今年度は「受給経験あり」9.8%、「受給経験なし」90.2%となっており、昨年度と比べて奨学金の受給経験がある者の割合は3.6ポイント減少していることがわかりました。過去3年と比較した場合、昨年度は受給経験のある者が10%を超えていましたが、それ以前は今年度と同様に10%未満であることがわかりました。

新入生の奨学金受給経験の比較（報告書 p.65）

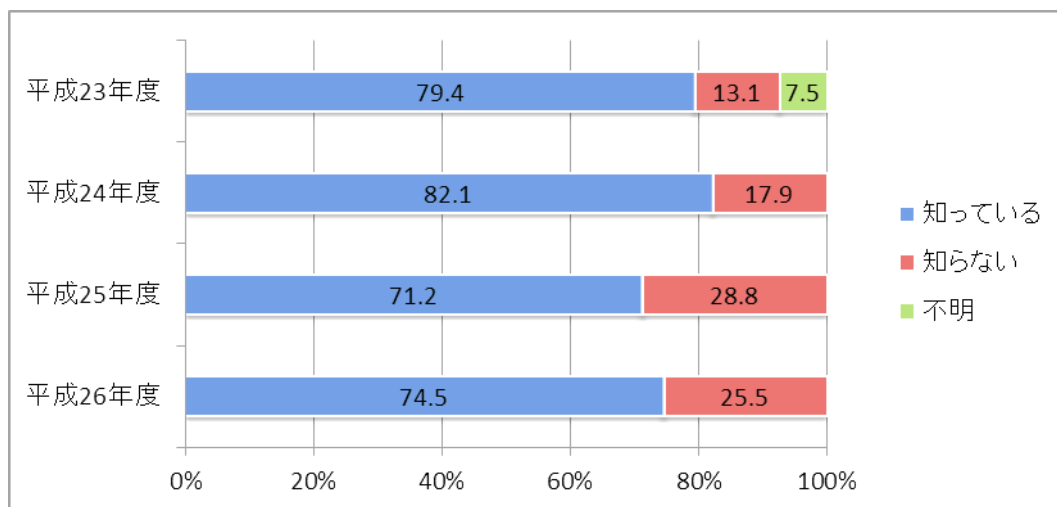


(2) 保護者の奨学金認知と希望について

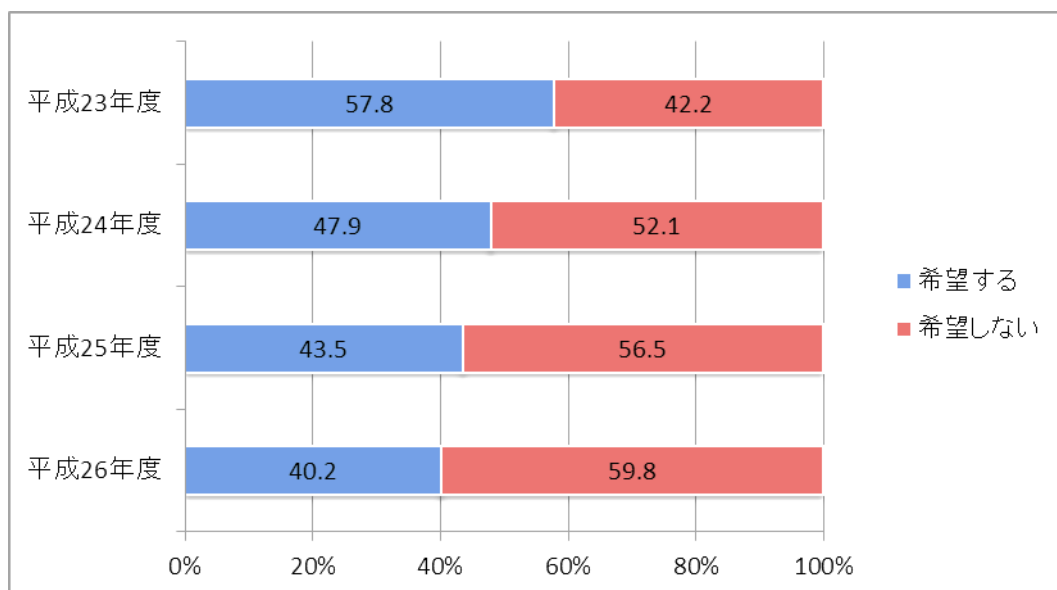
保護者の「奨学金認知」の割合は、毎年 75%前後の割合で認知されていることがわかります。これは質問票の間 13 について、一つでも○をつけた者を「知っている」としているため、個人によって知っている奨学金の数にはばらつきがあります。

「奨学金の希望」の割合は、今年度は「希望する」40.2%、「希望しない」59.8%となっており、昨年度の「希望する」43.5%、「希望しない」56.5%に比べると、希望する割合は 3.3 ポイント減少していることがわかりました。過去 3 年と比較した場合、年度ごとに希望する割合が減少していることがわかります。平成 23 年度に比べると 17.6 ポイント減少しています。平成 23 年は東日本大震災があり、緊急支援を含め奨学金のニーズが高まったことが予想されます。

保護者の奨学金認知の比較（報告書 p.66）



保護者の奨学金希望の比較（報告書 p. 65）



次回は、
「どのような新入生と保護者が、学生寮を認知・
希望しているか」についてご報告します。



「学生・キャリア支援センター*Research Report*」としてその一部を紹介いたします報告書は、TeaPot
からもPDF形式でダウンロードいただけます。（<http://hdl.handle.net/10083/56686>）

平成 26 年度「新入生の生活に関する調査」

第 5 回 「どのような新入生と保護者が、学生寮を認知・希望しているか」

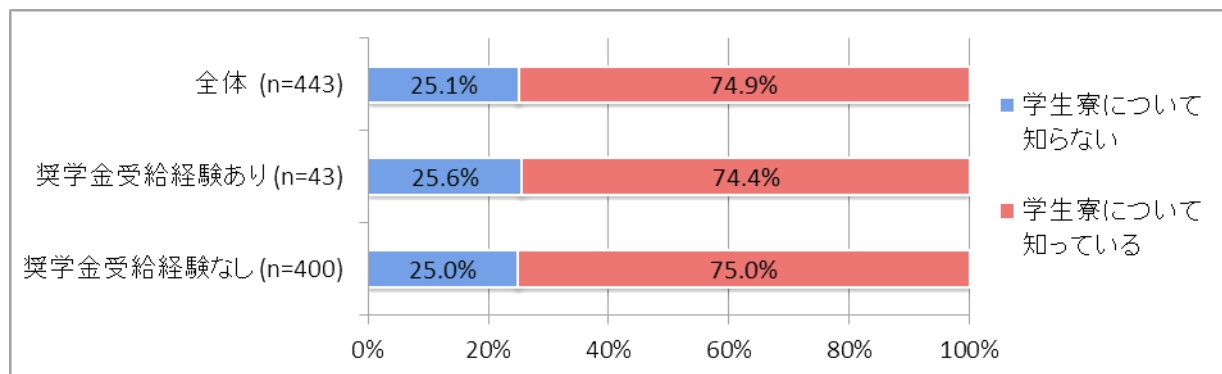
前回は「どのような新入生と保護者が奨学金を認知・希望しているか」についてご報告しました。その中で、新入生、保護者ともに、過去に奨学金の受給経験がある者、学生寮について認知している者ほど、奨学金を希望する割合が高いことが示されました。そこで、今回は新入生と保護者の学生寮の認知や希望についてご報告したいと思います。
また、学生寮の認知について、過去 3 年のデータとの比較を行いました。合わせてご覧ください。

1. 新入生の結果

まず新入生の学生寮の認知度を調べました。また、過去に奨学金を受給した経験がある者とならない者とで、学生寮の認知度が異なるかを調べました。

その結果、全体では 74.9%の新入生が大学奨学金について認知していることがわかりました。昨年度と比べて、全体の割合では大きな変化はみられませんでした。

奨学金受給経験と学生寮の認知（報告書 p.58）



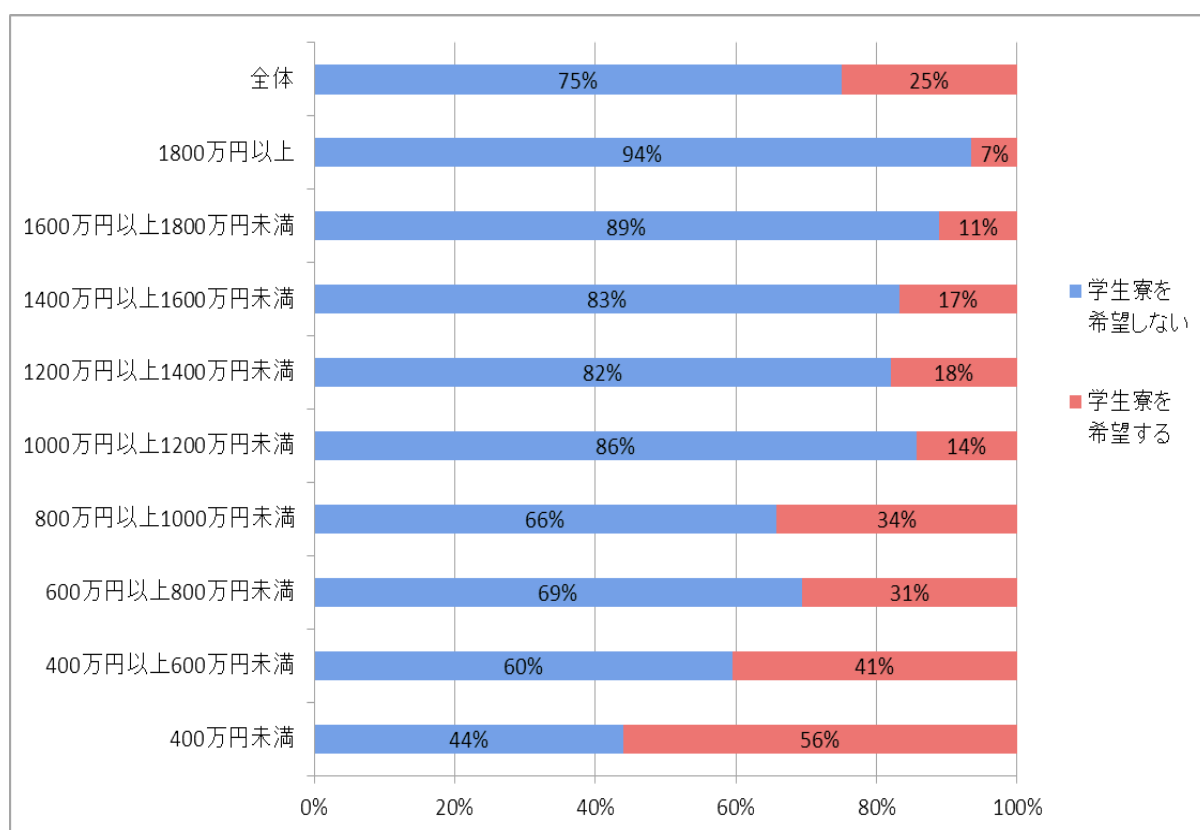
2. 保護者の結果

(1) 世帯年収が少ないほど、学生寮を希望している

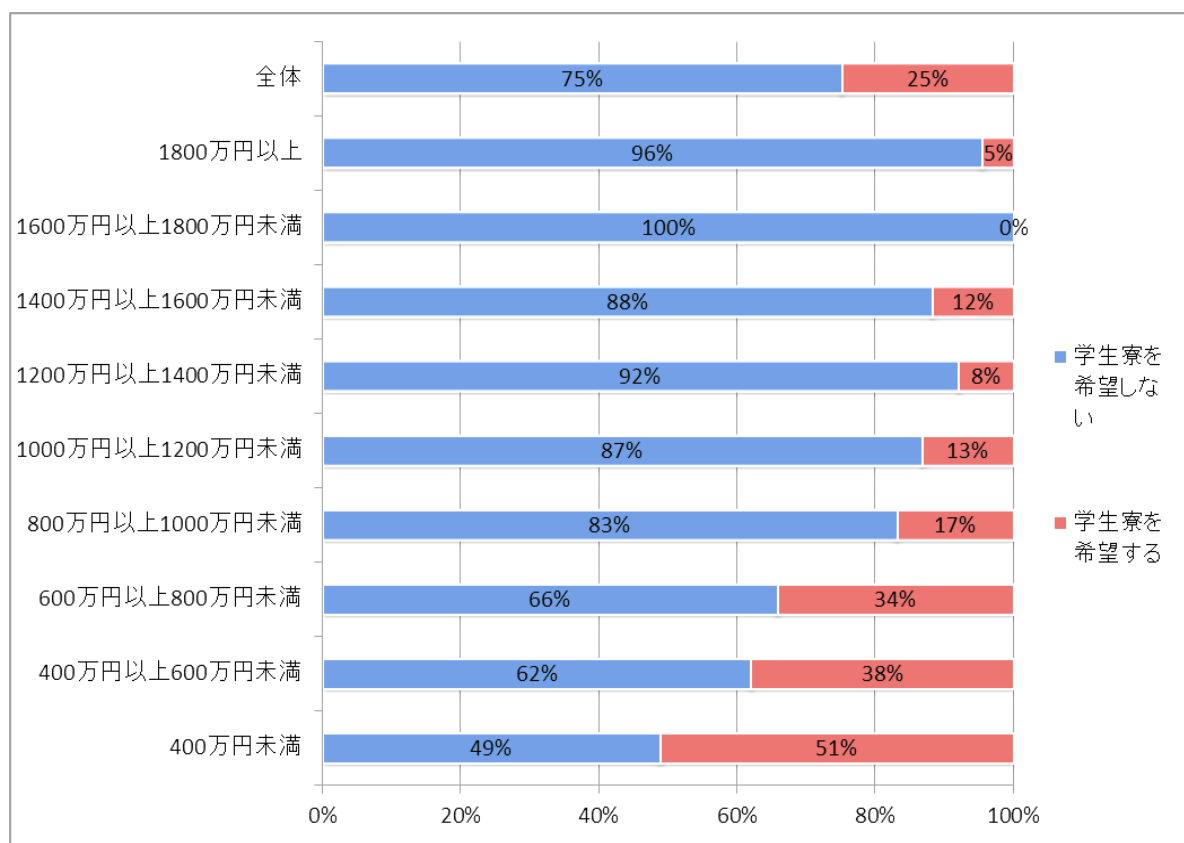
世帯年収と学生寮の希望の有無に関連があるかを調べました。

その結果、世帯年収が少ない場合は、学生寮を希望する割合が高く、世帯年収が多い場合は、学生寮を希望する割合が低いことがわかりました。学生寮の希望する割合が半数を超えるのは、昨年度は年収 400 万円以上 600 万円未満の 52%でしたが、今年度は 400 万円以下の 56%となっています。また、家計支持者の年収との関連についても、世帯年収と同様の結果となりました。

世帯年収と学生寮への入寮希望（報告書 p.60）



家計支持者の年収と学生寮への入寮希望（報告書 p.61）

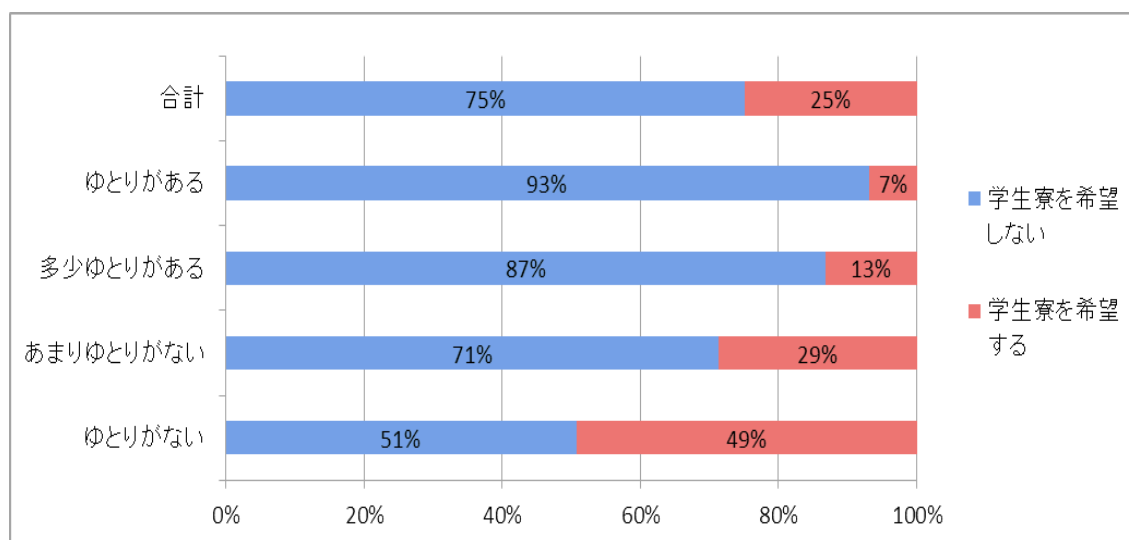


(3) 入学後の暮らし向きに余裕がないほど、学生寮を希望する割合が高い

入学後の暮らし向きと学生寮の希望の有無に関連があるかを調べました。

その結果、入学後の暮らし向きにゆとりがないと感じている場合は、学生寮への入寮を希望する割合が高く、ゆとりがあると感じている場合は、学生寮への入寮を希望する割合が低いことがわかりました。

入学後の暮らし向きと学生寮への入寮希望（報告書 p.63）

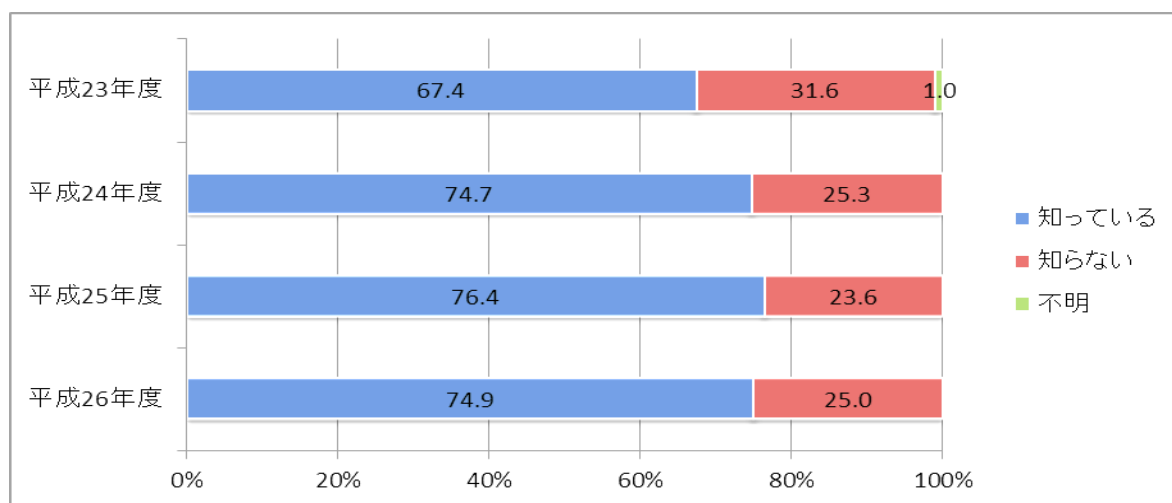


3. 学生寮の認知と希望について、4 年間の比較

(1) 新入生の学生寮認知について

新入生の「学生寮の認知」の割合は、「知っている」74.9%、「知らない」25.1%となっており、昨年度の「知っている」76.4%、「知らない」23.6%に比べて、大きな変化は見られませんでした。過去3年と比較した場合についても、大きな変化は見られていないことがわかります。

新入生の学生寮認知の比較（報告書 p.67）

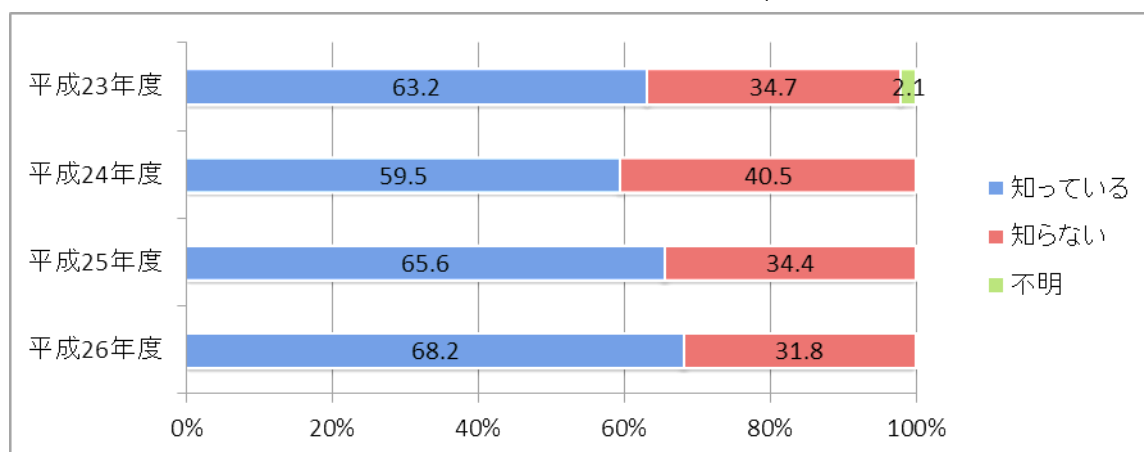


(2)保護者の学生寮認知・希望について

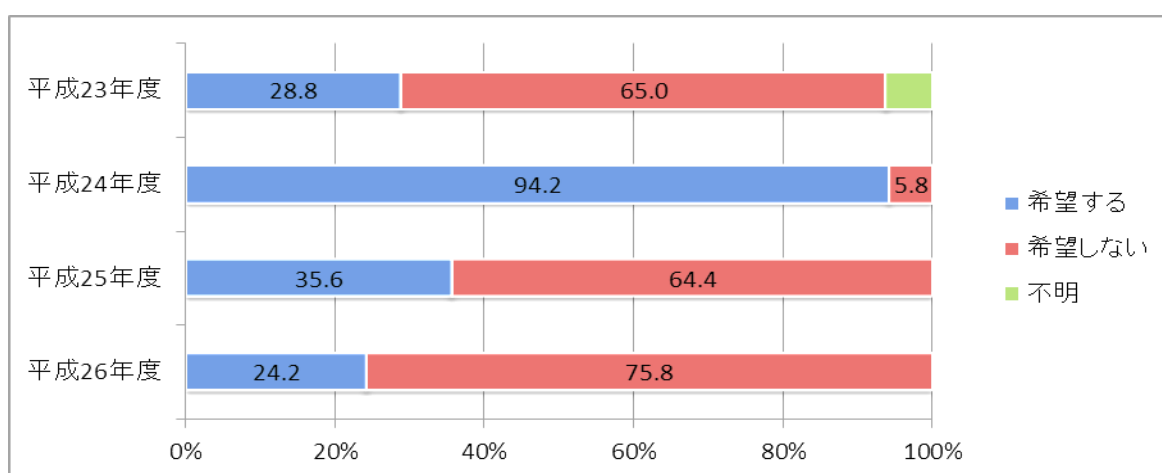
保護者の「学生寮認知」の割合は、「知っている」68.2%、「知らない」31.8%という結果になりました。過去3年と比較した場合に、今年度の学生寮の認知の割合が一番高いことがわかります。

保護者の「学生寮の希望」の割合は、「希望する」24.2%、「希望しない」75.8%となっており、昨年度の「希望する」35.6%、「希望しない」64.4%と比べると、希望する割合が11.4ポイント減少していることがわかります。過去3年と比較した場合について、平成24年度以外は毎年30%前後の割合で、学生寮を希望していることがわかります。学部生対象の学生寮のうち、お茶大SCCは申込時に、自宅からの距離による制限はありませんが、所得による制限があります。また国際学生宿舎は経済的困窮度の高い者から入寮の許可していることもあり、必ずしも希望する者が全員入寮できるとは限りません。入寮を希望していながらも、入寮ができなかった学生への支援が必要とされます。

保護者の学生寮認知の比較（報告書 p.68）



保護者の学生寮希望の比較（報告書 p.68）



「学生・キャリア支援センター*Research Report*」としてその一部を紹介いたします報告書は、TeaPotからもPDF形式でダウンロードいただけます。（<http://hdl.handle.net/10083/56686>）